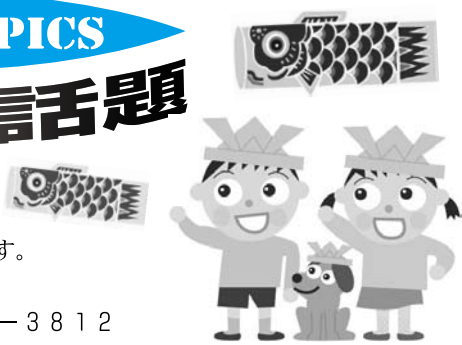


TOWN TOPICS まちの話題

●身近で楽しい話題、
明るい話題待っています。

広報こまつしま 電話 32-3812



緑化推進運動および啓発活動の一環で「とくしま森と緑の会」の緑の募金還元事業として3月24日、市役所玄関で苗木の無料配布が行われました。

配布された苗木は、オリブとブルーベリーが各100本、のむらもみじ150本。

3/24 苗木の無料配布で 小松島により多くの緑を

会場には、苗木を受け取ろうと大勢の来場者が早朝から列をつくり、開始から約10分で予定していた本数を全て配り終えるほど盛況でした。

また、小松島市内で有機質肥料を生産している株式会社豊徳様には、活動の趣旨にご理解とご協力を賜り、同社が生産している、みみずが作った有機質肥料のサンプル品(300cc入り)をご提供いただき、会場で無料配布されました。



お目当ての苗木を手にする来場者ら

4/15 檜渚小学校児童が体験学習 タケノコの収穫を通して地産地消を学ぶ



額に汗をかきながらタケノコを掘る児童ら

郷土の名産「タケノコ」の収穫を通して、自然に親しみ生産の喜びを味わってもらおうと、4月15日、檜渚小学校(竹内永子校長)の学校林等でタケノコ掘りの体験学習が行われました。

参加したのは、同校4年生から6年生までの児童17名で、学校から500mほど離れた学校林と学校林周辺の許可をいただいた竹林で、刃狭(ハセバ)と言われる専用の道具を上手に使用してタケノコを掘りました。

近日の温かさで前日の雨で大きく成長したタケノコを、40分程度の作業時間で約130キロ(約150本)を収穫。花枝健太郎君(同小6年生)は、一人で20本以上掘っていました。

収穫したタケノコを、1年生から3年生までの15名を含めた32名で学校まで運び、皮むきをして授業は終了。後日の給食でタケノコご飯として振る舞われ、児童らは旬の味覚を楽しみながら地産地消を学びました。

4/18~20 小松島手工芸文化フェスティバル 華やかな作品が勢ぞろい

第15回小松島手工芸文化フェスティバル(小松島手工芸文化協会主催)が、4月18日から20日までの3日間、ミリカホールで開催されました。

初日の約100人が参加した開会式典では、主催者を代表して広野カズ子会長があいさつの後、オープニングを祝うテープカットが行われました。

15周年を迎えた今年のテーマは「南の楽園」。

会場には、アートフラワー、タイトルアート、レザークラフト、

ガラス工芸、電飾アート、銀粘土、パッチワーク、くみひも、押花、編物、パンフラワー、かずら工芸、グラスアート、木彫りなどの各教室に通う会員や一般参加者らの作品約1000点を展示。

また、小松島映像研究会によるビデオコーナー、茶道裏千家がお点前を披露し、おもてなしするお茶席、かもめ保育園園児によるコーラス、チャリテイバザーや無料体験コーナーなどもあり、終日大勢の来場者で賑わいました。



「南の楽園」をイメージした作品に見入る来場者ら